

## ピアノ初心者学生の為のピアノ授業の試み — 集団講義とキーボード・ピアノを用いて② 練習カルテ導入

今泉明美

(横浜高等教育専門学校)

### 研究目的

昨年「ピアノ初心者への基礎的ピアノ学習方法の効果的な把握のさせ方の指導法の提示」を研究目的として「ピアノ初心者学生の為のピアノ授業の試み— 集団講義とキーボード・ピアノを用いて」を実践した。その結果として生じた課題より、今回は、①集団講義での分かりにくかった音楽学習内容の効果的指導方法②家庭での練習時間等、家庭学習へのより効果的指導法、の2つの課題を中心に、さらに昨年の初心者授業の指導方法に「練習カルテ」を導入した、新しい学習指導方法の学習効果を考察することを研究の目的とした。

### 研究方法

1. 入学生のピアノ初心者数の実態調査(資料 1)  
初心者のおめる割合はここ数年35%~50%弱と、多い傾向にある。
  2. 履修内容
    - 1) 保育 児童科保育課程1年履修内容 (資料 1)
    - 2) 初等 児童科初等課程 1 年履修内容 (資料 2)
  3. 実践指導内容
 

<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 開講期間</li> <li>2) 受講者</li> <li>3) 場所</li> <li>4) 授業形態</li> </ol>	}	(資料4)
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	-------

    - 5) 具体的指導方法
      - i) 基礎的ピアノ学習方法
        - (A) バイエル曲中での音楽理論の理解(楽譜の理解)
        - (B) 楽譜の内容の鍵盤上での理解
        - (C) 基礎的、鍵盤楽器の奏法の理解
        - (D) 音楽の歌い方
        - (E) 練習方法の習得
- と考へ、形態①で予習曲の、(A)~(E)の内容の解説と演習を、形態②で個人練習のアドバイスを、形態③で練習カルテを用いた宿題曲の指導、曲の修了確認をした。(A)~(E)の曲ごとの指導内容と回ごとの授業内容は、資料 5 に示す。
- ii) 練習カルテの導入(資料 6)
- 次の授業までの家庭での練習において、学生自身が、練習している曲番号と理解しにくかった内容や練習時間を、記入することで、学生自身に自分の学習状況や、理解度を自覚させると共に、次の授業での形態①、②

で、カルテをチェックして、各学生にあった、よりの確な個人指導を行った。

### 実践指導の結果と考察

実践指導内での練習カルテ利用の学習効果を、

1. 到達進度レベルの結果
  2. 前期定期試験の評価の結果
  3. 家庭での練習時間
  4. 履修後の学生へのアンケート結果、で考察した。
1. 到達レベルの結果とその考察(資料 8)  
保育・初等両課程で、カルテを利用した者(提出者44%)は、すべて「ピアノ基礎」修了レベルを超えたレベル6以上であった。カルテ未提出者(56%)では、レベル5未到達者が8%、レベル5が12%、レベル6以上が80%であった。この結果から、練習カルテ導入の指導方法は、ある程度学習効果があったと考えられる。
  2. 前期定期試験の評価の結果
    - 1) 試験内容
    - 2) 方法
    - 3) 評価の仕方
    - 4) 試験結果(資料 8)

(資料 7)

試験評価の結果と考察  
保育・初等両課程で、カルテを利用した者(44%)の評価は、A75%、B25%であった。未提出者(56%)では、A76%、B12%、C4%、D8%であった。この結果から、練習カルテ導入の指導方法は、ある程度学習効果があったと考えられる。
  3. 家庭内の練習時間の考察  
保育・初等両課程で、カルテを利用した者(44%)の練習回数については、◎・○(毎日20分以上練習できた・短い時間だが練習できた)が60%、△(1週間の内4日位できた)35%、×(ほとんどしなかった)5%であった。この結果から、家庭での練習時間についての練習カルテ導入の指導方法は、ある程度学習効果があったと考えられる。
  4. 履修後の学生への意識調査
    - 1) アンケート結果(資料9)
    - 2) アンケート結果の考察

I. スタートレベルは、90%が全く初めて、10%がスタートレベルを先んじて自主学習をしていたことがわかった。

II. 最終レベルでは、92%がレベル6以上に進み、レベル1～5が5%であったことから、ある程度学習効果があったと考えられる。

III. 初心者授業への理解度は、「よく理解できた」、「だいたい理解できた」で88%を占め、理解度の良い授業と言え、ある程度学習効果があったと考えられる。

IV. 学習内容において理解しにくかったものは、昨日同様、楽譜上のリズムや、へ音記号の階音読みなど、多岐に渡っていることがわかった。

V. IV. での理解しにくかった内容については、練習カルテの利用による練習内容の工夫や、レッスンごとの指導を受けることで理解できるようになったが、「非常に」24%、「まあまあ」59%を占めた。よって理解しにくかった内容への練習カルテを導入した指導法は、ある程度学習効果があったと考えられる。

VI. 授業形態については、「非常に有意義だった」、「まあまあ有意義だった」で95%を占め、学生にとって有意義なものであったと考えられる。よって、ある程度学習効果があったと、考えられる。

VII. VI. の答えに対する肯定的な理由や要望が、具体的にわかった。要望については、指導方法の改善内容として検討したい。

VIII. 練習カルテを家庭学習で、有効に用いられたかについて、「非常に」が10%、「まあまあ」が44%を占めた。よってある程度学生は、有効に用いることができたと考えられる。よって練習カルテを導入した指導の学習効果は、ある程度あったと考えられる。しかし「あまり」、「全然」も41%を占めることから、その原因をIX. で、考察して、指導方法の改善も検討したい。

IX. VIII. のカルテを有効に用いられたと考えられる理由としては、学生自身の学習意欲を高めることができたと言う内容や、指導して欲しい内容を明確に伝達できたという内容があった。有効に用いられなかったと考えられる理由については、怠慢な練習態度を表す内容が多かった。また「あまり利用しなかった」という内容も多かったが、カルテの必要性を感じなかったのか、他の理由があるのかは、ここからは読み取ることができなかった。以上のことから、カルテを有効に用いられたと考えられる学生からは、具体的学習効果の内容を知ることができた。また有効的に用いられなかったと考えられる学生に対しては、その原因をより深く究明し、指導方法の改善を検討したい。

X. 1日の練習時間については、1日平均11分以上が59%で、毎日楽器には触っているようだが、練習時間の少ない学生が非常に多いことがわかった。同様のことは、3. 家庭内の練習時間の考察からも読み取れる。練習カルテの効果は、ある意味あったとも考えられるが、その用い方を検討する余地があると考えられる。

XI. X. の練習時間に対する意識は、練習時間が20分以下の者が76%もいる中、「あまりできなかった」、「全くできなかった」と考える者が、59%いるように、多くの者は「練習時間が少ない」と自覚していると言える。が「まあまあ」と考える者も34%もいた。よって、家庭での練習時間の意識改善に対する学習効果は、見直されなければならない。

XII. 練習を「あまりできなかった」、「全くできなかった」と意識した者の理由に、アルバイトや学習意欲のなさ、楽器不所持等の多くの問題があることがわかった。

XIII. ピアノ能力が「非常に向上した」、「まあまあ向上した」で95%を占め、ほとんどの者がピアノ能力は向上した、と考えていることがわかった。よってある程度学習効果は、あったと考えられる。

XIV. 授業に対する要望は、ピアノIへの講義導入授業の時間配分、使用楽器、授業の手順などであった。今後の指導方法の改善点として考えていきたい。

#### 結論と今後の課題

##### 1. <結論>

実践指導の結果と考察から研究目的に明示した①、②の課題にについて、昨年の初心者授業の指導方法に、「練習カルテ」を導入した新しい学習指導方法の効果はある程度あったと考えられる。が、家庭での練習時間等の家庭学習へのより効果的学習は、見直されなければならないと考える。

##### 2. <今後の課題>

- 1) 「練習カルテ」を導入した学習指導方法は、家庭での練習時間等の家庭学習への学習効果の点で、その具体的適用方法の改善
  - 2) 学習形態のより良い工夫
  - 3) より良いピアノ授業をする為の、学生の生活面など多面に渡る指導
  - 4) 「ピアノ基礎」以降継続される、「ピアノI」の授業の取組み方
- 以上4項目を今後の課題として、初心者のピアノ学習指導に当たりたい。